

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第17回放送の概要 (2010年5月22日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わたかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM)「7つ 8つ 9つ とう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

去年は新型インフルエンザ、今年は口蹄疫と5月は事件が起こる月なのでしょうか。蹄が二つに割れた家畜がかかる病気で、豚、牛、水牛、羊、ヤギなどが感染するウイルス性の急性伝染病で、日本では法定伝染病に指定されている。感染が確認されると他の家畜への感染防止のため処分されとても悲しい事態になっている。畜産農家の方の胸のうちを思うと胸が痛みます。

2. ゲストコーナー：旅行会社ワンワールド代表 北井正昭さん (52 陽会)

志理池小学校、荻藻中学から兵庫高校へ進学。大学卒業後中堅の旅行会社に勤務し、2001年に旅行会社ワンワールドを設立した。今の会社のモットーは「誰もが安心して出かけられる旅行会社、旅行のユニバーサルデザインを目指しています」としている。旅行会社に勤めるようになったきっかけは、もともと旅行が好きで、当時なかなか行けなかった海外旅行に大学の3、4年の時2年続けて行った事である。出来るだけお金を使わないため船で沖縄に行き、そこで乗り換えて台湾(キールン)に行き、更に列車で首都の台北に丸2日間かけて行った。この旅行で普通経験しないことを体験できたので病みつきになり、卒業後旅行会社に就職した。元々は業務担当で内部の仕事をしていた。1973年頃海外旅行ブームで農協などの団体旅行が多かった。当時の思いで話としては入社2年目に、先輩の添乗員一人が30名以上を連れてバンコク、シンガポール、バリ島に行き、帰りはジャカルタから香港に帰る予定であったが、途中の区間6~7席予約できない状態が出発していたため、北井さんは大晦日の日にシンガポールに入り、現地交渉に当たり、インドネシアの航空会社とは交渉が成立し問題なかったが、香港に拠点を持つ航空会社とはうまくいかず別便を仕立てることになり2班に別れ、1班はジャカルタから香港へ、もう一つはジャカルタからシンガポール経由で香港に帰ることになった。結果として全員無事帰ることが出来た。最近ではフランスで開催されたワールドサッカーでチケットが手配できず、結局ツアーはキャンセルした事例があった。

ワンワールドが目指すユニバーサルデザインについて、ユニバーサルは普遍的、みんなのとい

